

サロンあがたの森 2025

特別上映 <sup>しづり</sup>「倭文 旅するカジの木」  
+ 北村 皆雄監督のトーク

日 時 4月19日(土) 午後1時開場・全席自由  
上映1時半～ 119分  
上映後、北村皆雄さんのトーク  
会 場 あがたの森文化会館 講堂・ホール 参加費 200円

※ 電話での事前申し込みが必要です

天上界から遣わされた二柱の武神は、地上の邪悪な神、草木、石の類のものをみな平定した。征服できなかったのは星の神だけだったが、織物の神・倭文には服従した――。『日本書紀』より

映画「倭文」のオフィシャルガイドブックに、こんな神話が掲載されている。

「日本書紀」に登場する「倭文神」。「映像民俗学」の第一人者で60年映画制作に携わる北村皆雄さんは、「なぜ織物の神が武神より強いのか」との疑問を持ち、倭文の謎を解くため国内各地のほか海外にも足を延ばし、綿密な調査・取材を重ねた。

その鍵が、衣服の始原を担った「カジの木」だ。カジノキやコウゾなどの木の樹皮が、木綿(コットン)が普及する江戸時代以前は衣服に使われていた。撮影隊は、それらの樹皮からとった糸で織った「原始布」が残る徳島県の村を訪ねる。織物以前の「タパ」(叩き布)の姿を求めてパプアニューギニアへ、「カジの木」がオセアニアへ渡った玄関口の台湾へ。さらに、倭文の「創造的な復元」に挑む現代の織物作家4人を描いた。

神話のシーンにフィクションを交え、古代の日本人が衣服に込めた力を解き明かした、知的好奇心に溢れたドキュメンタリーだ。

上映終了後に、北村監督が倭文に興味を持ったきっかけや作品への思いなどを話します。

北村皆雄(きたむら・みなお)さんは1942年伊那市生まれ。早稲田大卒後、記録映画やテレビドキュメンタリーの演出家に。1981年映像制作会社ヴィジュアルフォークロアを設立し、「アタカマの歌」「ほかいびと―伊那の井月」など数多くの映画、テレビ番組を制作。正月から県内をはじめ全国で上映し大ヒットした映画「鹿の国」のプロデューサーを務めた。

主催：サロンあがたの森実行委員会 共催：旧制高等学校記念館・記念館友の会

申し込み・問い合わせ 旧制高等学校記念館 ☎35-6226 FAX 33-9986